

拝啓 今年も早や11月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園は、紅葉のきれいな時期となりました。

今回は、小西芳之助先生の『コリント人への第一の手紙講解説教』からの引用の6回目ですが、今回のエンカウンターの15ページ、「結婚生活の賜物が多い」という項には、次のように書かれています。

「独身生活については、独身の賜物を頂いている人は独身でいると、また、その賜物を頂いていない者は、結婚せよ、とパウロは言っています。人類に対して大なる貢献をした人には、独身であった者が多いことも事実です。私は結婚生活の賜物が欲しい。独身生活の賜物はいやです。その理由は、結婚生活の賜物が多い。独身生活の賜物は少ない。私は多い賜物が欲しい。私は凡人の賜物が欲しい。私は結婚して皆さんと一緒に多くの賜物を頂いて、皆さんと共に復活の信仰を学びたいと思います。」

結婚生活の賜物は、確かに大きいと思います。

この一月に読んだ『一日一生』等の本から、感銘を受けた言葉を紹介します。

**小西芳之助先生『主の御名を呼ぶ』11月1日**

「平安と偉大

我らの平安は、信仰と望と愛とからなりたっている。この3つは、われらの永遠の生命の内容を成している。我々はなんと平安にして、偉大なる人生を送っていることであろう。デビッドソンが言ったことは本当である。即ち、「よく生きた平凡な人生は、最も偉大な行為である」と。私はこの「よく」を「信仰と望と愛をもって」と説明したい。

私は切に望む。この非凡にして、静かにして、偉大なる人生を生きんことを。」

**新渡戸稲造先生『一日一言』10月27日**

「山の如く積もる勤務は多くとも、1年間の用を1日に遂ぐる力もなければ、またその必要もなし。人はただ、その日その日の義務を完了することにて足る。一日の業は百年の基礎をもつくるべし、一粒のコメに万石の約束あるがごとし。」

**松下幸之助先生『続道を開く』「仰ぎ見たまえ」**

「仰ぎ見給え。あのすき通るような真冬の青空。どこまでもどこまでも青く染まった果てしなき大空の深さ。思わず息をのむ。そんなとき、天の声が聞こえる。フト天の声が聞こえる。」

小さな知恵と小さなとらわれと小さな憤りの中で、われとわが心を傷つける日々ではあるけれど、お互いの天与の魂はそんな日々耐えて、今日もな奥深く、静かな光をたたえている。その光が、もの思わぬ一瞬にきらめくのである。天地と一体となった忘我の時、ふとひらめき出るのである。この素直ななつかしさ。不思議なあたたかさ。

思い悩むのもよい。迷いの淵に立つのもよい。それも人間の一つの生き甲斐かも知れない。しかし時に仰ぎ見給え、あのすき通るような真冬の青空を。」

**内村鑑三先生『統一日一生』10月31日**

「たいていの人の生涯は悲劇でも喜劇でもなく、平々淡々水のごとき生涯である。これに

詩もなければ歌もない。ただ働いて生きるのみである。…されどもひとたびイエスのこれに臨みたもうや、水の如き生涯は化してぶどう酒の如き生涯となるのである。日常の労働に深き意味が加わるのである。つまらないものが面白くなるのである。別に人にほめらるるにあらざれども、また政府または社会又は教会に価値を認めらるるにあらざれども、生きていくこと、そのことが幸福なることとなるのである。そしてイエスのみがこの奇跡を行ない給うのである。イエスに会いまつりて、農夫は田園において満足し、商人は店頭に在りて満足し、工人は工場において満足するに至るのである。淡味なる平民の生涯に意味と興味とを加うる点においてイエスの感化力は独特である。」

**バークレー先生『続一日一章』11月13日**

「楽しい我が家

詩人たちは皆家庭を愛した。バイロンの詩を覚えておられるだろう。

我々が家に近づくと忠実な番犬が

低い声で吠えて歓迎してくれる。

我々が近づくのを見つめて

眼を輝かせて迎えてくれる。なんと楽しいことか。

あるいは、ロバート・ルイス・ステューブソンが、S・R・クロケットに送った詩を覚えておられるかもしれない。

ふる里の山々よ、私の死ぬ前に

お前たちの姿を見せておくれ、もう一度

小鳥のさえずりを聞かせておくれ、……」

**カウマン先生『山頂を目指して』11月2日**

「神はわたしたちを、日常のありふれた事柄に対して忠実なものとすることによって、更に大いなる職務に耐えるように供えられる。平凡な親切の実行を通して、神はわたしたちを、堂々とした任務に導いて下さる。私たちの示すほんのわずかな行為は、私達が現在よりさらに高い尊敬を勝ち得る準備となる。小さな義務を軽蔑するものは、それよりも重要な義務を十分に果たすことは出来ない。」

11月3日（水）、第18回南原繁シンポジウムで、東大教授宇野重規先生に、「基調講演として、「南原政治哲学の学問的射程とその現代的意義」と題してお話いただきましたが、実に明快で分かりやすい、よい講演でした。

妻の入院が、もう一月以上になりますが、毎日、お見舞いに行くのが日課になってしまいました。家庭や夫婦について大切なことを学ばせて頂いております。

新型コロナの感染者数が、信じられないほど、急速にダウンしたのは、ワクチンのおかげだと思います。マスク、手洗い、うがいなどはこれまで同様注意され実行されて、お体には十分ご注意下さるようお願い申し上げます。

11月24日

山口周三

エンカウンター読者の皆様